

前略

新型コロナウイルス感染者が日本国内でもすさまじい勢いで増加をしている中、政府は人口の密集する都市に緊急事態宣言を発令して、学校や仕事場への外出制限を強化し衛生管理を徹底することで爆発的感染は防げるとの見解を繰り返しています。しかし医療の現場で感染症患者と向き合い働く医師、看護師、検査技師はマンパワーに加え物資の不足で心身ともに疲弊しています。このままでは新型コロナウイルス感染者のみではなく、それ以外の患者さんの受け入れも不能になるという事態が生じるでしょう。

東京都内の大学病院を含め多くの近隣都市の中核病院や救急病院では新型コロナ感染の重症患者を受け入れる病床や ICU ベットがすでに不足してきています。今後、たとえ軽症者をホテルなどの簡易隔離施設に移動したとしても重症者を治療できる医師、看護師が十分ではありません。重度の肺炎による呼吸困難で人工呼吸器に装着しても改善の見込めない患者さんには人工心肺装置（ECMO）が必要になる事があり、そのためのマンパワーは一人の患者さんに 10 名ほどの医療従事者が 24 時間体制で治療に当たらねばなりません。

その状況を鑑みて令和 2 年 4 月 6 日に日本心臓血管外科学会は全国の施設に向けて緊急を要しない待機患者さんの手術を控えて一般病棟を感染者隔離病棟に転用し、ICU 病床を重症患者の受け入れの準備をすることを提案しています。（<https://plaza.umin.ac.jp/~jscvs/>）

私たち心臓血管外科医は国難ともいえる新型コロナウイルス感染症に一丸となって対処していく所存ですが、日本医師会会長横倉義武先生には政府に私たちの声を届けていただけるように以下のような嘆願書を書かせていただきました。

1. 感染患者の病床を確保する目的でとりわけ外科系の診療科に緊急を要しない手術の延期要請
2. ICU 病棟の病床数と医師、看護師、臨床工学士（ME）の増員と待遇改善
新型コロナウイルス感染症重症患者の受け入れのための ICU 増床加算
3. N95 マスクや感染防護服の早急な補充

以上、

嘆願書発起人代表：南和友（南和友クリニック 理事長・院長）

連名発起人：

高本真一（元三井記念病院院長）、佐野俊二（UCSF 小児心臓外科教授）、澤芳樹（大阪大学教授）、夜久均（京都府立医科大学教授）、種本和雄（川崎医科大学教授）、小野稔（東京大学教授）、横山斉（日本心臓血管外科理事長）、手取屋岳夫（上尾中央総合病院診療顧問）、大木隆生（慈恵会病院血管外科教授）、國原孝（慈恵会病院教授）、福田宏嗣（独協医大教授）、紙谷寛之（旭川医科大学教授）、小柳俊哉（石心会病院副院長）、秦雅寿（ドイツ・バードユーンハウゼン心臓センタースタッフ）、赤須浩二（延岡共立病院副院長）、宮本隆司（北里大学准教授）、秦光賢（日本大学病院部長）、依田真隆（柏厚生中央病院部長）、安健太（ドイツ・カールスブルグ心臓センター助手）